

運動会で防災力アップ

21日安佐南区の伴学区

災害時の対応に役立つ知識の習得や作業をプログラムに組み込んだ運動会を、広島市安佐南区伴学区の住民たちが21日、伴小グラウンド（伴中央1丁目）で開く。各地で豪雨災害などが相次ぎ、防災への関心が高まる中、子どもの運動離れなどから2年前に休止していた町民運動会をリニューアル。「防災町民運動会」として企画した。（神田真臣）

土のう積み上げリレー ■ 簡易担架作り ■ 大声競争



防災町民運動会をPRするポスターを手にする上垣内さん（右）

豪雨被害機に リニューアル

土のうを作って積み上げる作業を4人1組で繰り返すリレー、男女4人で「逃げろ」などと避難を呼び掛ける声の大きさを競う「大声競争」…。当日予定される14のプログラムには、徒競走や玉入れ競争などの通常種目に交じって、災害対応に関連した五つを組み込んだ。毛布と物干しざおで簡易担架を作る競技や、自動体外式除細動器（AED）の使い方を消防団員に教わるプログラム、地震による火災を想定したバケツリレー

もある。伴学区は川沿いや山裾に住宅地が広がり、一部は土砂災害の警戒区域に指定されている。1999年の「6・29豪雨災害」では、帰宅中の高校生が氾濫した川に流されて亡くなった。2014年の広島土砂災害では目立った被害はなかったが、安佐南区などで77人が犠牲になった。

一方、毎年開かれていた町民運動会は、子どもの運動離れやマンネリ化を背景に参加希望者が年々減り、17年から休止になった。しかし18年7月の西日本豪雨で県内各地が被災。伴学区の町内会から「防災の視点を取り入れて運動会を再開させてはどうか」との声が上がり、伴学区内に暮らす防災士の新見健さん（63）たちがプログラムを考え、運動会は午前9時から午後2時半まで。見物を含め、学区内14自治会・町内会から約千人の参加を見込む。「楽しみながら防災が学べる内容。まずは気軽に体験して」と新見さん。伴学区町内会連合会特任理事の上垣内保之さん（72）は「万が一のときに備え、地域全体で防災への意識や住民間の連携を強める機会にした」と話している。